



春の訪れとともに 町並みを彩る
～たけはら町並み雛めぐり～

2月11日～3月20日、町並み保存地区で、たけはら町並み雛めぐりが開催されました。

町並み保存地区内の施設や店舗に、竹原の商家ゆかりの雛人形や、江戸から平成までの雛人形が登場する雛めぐりは、毎年恒例となっています。期間中は様々なイベントが行われ、市内外から多くの観光客が訪れました。

3月4日に行われた子ども雛めぐりでは、約20人の子どもたちが華やかな着物に身を包み、笠井邸から町並み保存センターまで歩きました。

少し雨が降っていましたが、お雛様のような子どもたちの



姿にあちらこちらから「可愛いね〜」という声が聞かれました。

昨年から行われている「たけはらかぐや姫の町並みガイド」には、市内の家族連れや観光客など、毎回約15人、計約60人が参加。雛人形を探しながら、かぐや姫と一緒に、町並み保存地区を巡りました。

「昔の雛人形と、今の雛人形は、顔が全然違うんじゃないか。」

と話をしながら、雛人形を見比べる親子の姿も。

春の訪れとともに、多くの人でにぎわった、今年の町並み雛めぐり。来年も楽しめそうですね。

3月9日と15日、竹原中学校、忠海東小学校で、ふるさと納税を活用した「竹原っこ夢プロジェクト」が行われました。

竹原中学校では、応援歌作りを企画。県内の音楽グループ「パラレルリープ」が、生徒、保護者、地域の人から募った、卒業する3年生へのメッセージを歌詞に取り入れ、「君のふるさと」を作曲しました。

3年生を送る会では、「パラレルリープ」がサプライズゲストとして登場し、在校生とともに歌いました。

3年生からは、「すごく感動した。」「部活などを頑張った中学校生活3年間を思い出した。」といった感想が聞か



竹原っこ夢プロジェクト
in 竹原中学校&忠海東小学校

れました。

忠海東小学校では、お菓子作りを企画。4年生10人が、創立100周年の記念行事で、出席者に配布するクッキーを作りました。

チームに分かれて作業を分担し、協力しながら作ったクッキーは、なんと900個。休憩も忘れるほど夢中になって作った友田菜尋さんは、「ずっと立ち作業だから足は少ししんどいけど、楽しいです。」

と話してくれました。

今回も、多くの子どもたちの夢が、形となって実現しました。ふるさと納税にご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。



キャンベルゼリー 市内小中学校の給食に

2月27日、市役所で、JA三原から、竹原キャンベルを使ったキャンベルゼリー2,376個が寄贈されました。キャンベルゼリーは、市内全小中学校の給食として提供され、児童生徒に好評でした。JA三原は、学校給食における地産池消にも協力しています。



6年間の思い出を胸に

3月22日、市内小学校で、卒業式が行われました。

東野小学校では、先生や在校生、保護者、地域のみなさんが見守る中、16人の卒業生が慣れ親しんだ学校に別れを告げ、新たな一歩を踏み出しました。みなさん、中学校でも、がんばってください。



震災から1年 被災地への祈り

3月9日、市内で、東日本大震災被災者支援を目的とした、街頭募金活動を行いました。小坂市長をはじめ、協本市議会議員、市議会議員、市職員が参加し、合計113,107円が集まりました。お預かりした義援金は、すべて被災地に送ります。

また、震災から1年を迎えた3月11日14時46分、市内全域でサイレンを吹鳴。公民館まつりの参加者をはじめ、多くの市民が黙とうをささげて、犠牲者の冥福を祈りました。

震災の記憶をいつまでも風化させることなく、復興に向けて一歩ずつ進んでいくことが大切ではないでしょうか。

認知症を正しく理解し 安心して暮らせるまちへ

3月24日、文化創造ホールで、認知症講演会が開催されました。市内事業所のみなさんによる、認知症に関する寸劇で、会場が和んだ後、広島県東部認知症疾患医療センターの小山田孝裕さんが、認知症について講演。参加者は、真剣に耳を傾けていました。



竹鶴政孝氏の世界にひたる

3月1日～14日、たけはら美術館文化創造ホールで、「日本のウイスキーの父 竹鶴政孝特別展」が開催されました。

特別展では、竹鶴氏の幼少期時代から晩年の写真や、1920年頃のウイスキー、関連書籍など、竹鶴氏に関する様々な品が多数展示されました。

来場者数は、2,735人。期間中は、講演会も開催され、大盛況のうちに幕を閉じました。

おいしい 楽しい 盛りだくさん！

3月25日、勤労青少年ホームで、きんせい祭りが開催されました。パネル展示やバザー、各講座の発表、フードコーナーなど、盛りだくさんの内容。ライブやダンスでは、大きな拍手が送られ、会場は温かい雰囲気になりました。

